

## 「新潟のソーシャルキャピタルを考える会 2015」を開催しました

平成 27 年 1 月 24 日（土）の午後 3 時から、新潟市の万代シルバーホテルにおいて、「新潟のソーシャルキャピタルを考える会 2015」を開催しました。

当プログラムでは、医学部 4 年次生の医学研究実習や、阿賀町、十日町市における生活環境と健康についての大規模アンケート調査など、ソーシャルキャピタルをテーマとした取り組みを行っており、私たちの取り組みや新潟で行われている他の研究を報告し、日本のソーシャルキャピタルの第一人者である近藤克則先生からご意見をいただければと、この会を企画しました。

会には土曜日の午後にもかかわらず、62 名もの方にご参加をいただきました。

まずは、学生による研究報告として、私たちと、環境予防医学分野、国際保健学分野で行われた医学研究実習の報告を行いました。環境予防医学での医学研究実習報告では、新潟県において魚沼地区の死亡率が最も低く、その要因について調査結果をさらに解析して導き出せればとのことでした。国際保健学での医学研究実習報告では、新潟市の高齢者において、肉・魚や野菜・果物の摂取品度がソーシャルサポートの有無・頻度と深く関わっており、住民の健康管理の上でのソーシャルサポートの重要性をあげていました。



大学・自治体による研究報告では、当方の鈴木特任助教から、現在調査が進行中の阿賀町、十日町市における大規模アンケート調査の概要について説明しました。国際保健学分野の菅蒲川由郷先生の報告では、インフルエンザ・肺炎球菌ワクチンの摂取率は、性別、年収、などの要因のほかに、地域の集まりへの参加などソーシャ

ルキャピタルの指標とも深く関係しているとのことでした。新潟市保健衛生部の田代敦志先生からは、新潟市の住民の幸福度には地域差があり、地域レベルの QOL が大きな影響を与えているとご報告頂きました。

基調講演では、千葉大学予防医学センター環境健康学研究部門の近藤克則先生から、「ソーシャル・キャピタルと健康」と題してお話しいただきました。先生の取り組んでおられる JAGES (Japan Gerontological Evaluation Study) では、全国規模のアンケート調査の解析結果をもとに自治体に向けて「地域診断書」を作成し、さらには「見える化」して提示することによって、自治体の結果の解釈の促進と的確な対応策立案に寄与しているとのことでした。新潟市についてのデータでは、認知症リスクやうつ病の割合など、市内でも地域によって健康格差があり、それは趣味の会参加率などソーシャルキャピタルの指標と密接に関連していることを示されました。そして、それに対して重点地区をあげての効率的な健康施策立案が可能であると述べられていました。

報告・講演後の質疑応答も非常に盛り上がり、盛会のうちに終わることができました。私たちのソーシャルキャピタル調査は次年度以降も続けていく予定です。是非この会を次年度以降も継続し、私たちの取り組みの成果を広く発信していきたいと思えます。

